

20008

AMI 患者に対する継続した患者指導～患者参画型看護計画を導入して～

¹愛知県立循環器呼吸器病センター

深堀 慎一郎¹、不破 孝枝¹

【目的】患者状態に合わせ集中治療部と病棟で独自に患者指導を行っていた。患者参画型看護計画を導入し、入院から退院後の生活を見据えた院内統一の患者指導を行い、その効果と今後の課題を明確にする。【方法】1. 早期に介入可能な指導内容を院内で統一した指導手順を作成 2. 病棟間で継続できる患者参画型看護計画を導入 3. 作成した指導手順と患者参画型看護計画を AMI 患者 10 名に運用 4. ICU, HCU, 病棟に所属する看護師 55 名を対象に患者参画型看護計画の利点と患者指導効果をアンケート調査

【結果・考察】アンケートの結果、実施経験のある 36 名の回答を得た。指導手順を作成したことで、患者指導が統一出来たと答えた者は ICU・HCU92% (24/26) 病棟では 20%(2/10) であった。急性期と回復期では患者状態と指導の視点が異なり、急性期に行った指導では不足があることが顕在化した。患者参画型看護計画については 1. 患者主体の看護計画実現 64%(23/36) 2. 患者の理解と協力が得られる 56%(20/36) 3. 患者と看護師の信頼関係づくり 53%(19/36) であり患者主体の看護計画実現には看護師教育が必要であった。【結論】1. 患者の回復過程に合わせた患者指導が必要であり、今回統一した患者指導手順では不足があった。必要な情報整理や看護記録の強化に努め、病棟間の連携を強化する。2. 患者参画型看護計画は患者指導に必要であり、看護の質向上にも有効であるが実践する看護師の教育強化が必要である。